（昭和45年11月9日第三種郵便物認可）　新潟建設新聞　2022年（令和4年）11月10日（木曜日）

陸海空港建設に功績

北陸地整 施工を通じた創意工夫

北陸地方整備局港湾空港部長賞、4機関が港湾空港部長賞、3機関が北陸地方整備局長賞を日本埋立浚渫協会北陸支部（川崎博之支部長）と共同で着手技術者発表会を開いた。

港湾空港建設に従事する着手技術者から施工を通じた課題への対応や創意工夫などが披露され、官民の技術者が相互理解を深めることを目的に2014年度から継続している。前回に引き続き北陸港湾空港建設業協会や日本海上起重技術協会北陸支部、全国浚渫協会北陸支部なども参加し、北陸地方整備局や港湾事務所、ウェブ配信により約130人が聴講した。

久田成昭港湾空港部長は「今回の発表者全員が20代であり、いずれも北陸の将来を担う方々。聴講者も含めて、さらなる着手技術者の研さん、相互理解の促進を図っていただきたい」とした。

発表者とテーマは次の通り。

◆港湾空港部長賞
◇松井建矢（東洋建設）＝岸壁改良工事における陸側港湾空港建設株式会社が、被災地の復興に向けた取り組みを紹介した。

長岡市

太陽光発電を検証

省エネ・再エネセミナー

長岡市で10月31日、長岡市省エネ・再エネ産業振興プラットフォームセミナーが開催された。太陽光パネルの実証実験に取り組む長岡技術科学大学が設置方法、積雪状況による発電効率の検証結果を発表。実際に導入している市内の企業2社が「効果と課題について語った。

長岡技科大の山田昇教授は、太陽光導入の可能性を県内の地域別に示した環境省のデータを紹介。「農地も含むが新潟県は、長岡市、上越市、新発田市、長岡市の年間発電量が多く、長岡では1000メガワットを超える可能性がある」と述べた。

太陽光パネルの水平、垂直別のシミュレーションでは「設置の角度に関係なく、長岡では東京に対して8割は発電可能と考える」とした上で、大学構内での実験結果を明らかにし「2009年に図書館の屋根に設置した40kWシステムパネル（30度）と構内での垂直面（90度）、水平（0度）の3種類別の日平均発電量（2月～9月）を比較した。5月、6月は水平が多く発電し、発電実績として30度を1とした場合、90度が0・85、0度は0・84だった」と述べた。

日の実証では「シングル折半屋根で12時30分のパネル表面温度は30度を超えていた。設置角度が発電量に影響を与えるとの結果を得た。今後は、パネルの汚れなどを考慮した実証を進めたい」とした。

会場には30人が参加した

日本精機

施工者モニターを募集

小規模土工にICTで

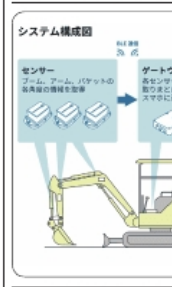
車載計器などを手掛ける日本精機（佐藤浩一社長、本社・長岡市）は、開発したミニショベル用ICT施工のガイダンスシステム「Holfree（ホルフィー）」を12月から販売。先行販売・貸し出しを開始する。

小規模土工などへのICT活用を追い風に、普及を図りたい考えだ。実際に利用するオペレーターの声を反映させたいとし、モニター企業を募っている。11、18、25日の金曜日午前10時から12時まで、同社高見事業所で体験会を開催する。体験会は参加費無料、事前申し込み不要。

センサーを既存のミニショベルに貼りて取り付け、バケットの爪先と地面までの距離を計測。掘削深度の数値をスマートフォンの専用アプリに送る。数値を見ながら掘り進めることができ、経験の浅いオペレーターでも一人で施工できる。

ホルフィーは「掘る」と「フィーリング」を合わせて名付けた。自動施工ではなく、あくまでもオペレーターを補助するシステム。感覚をつかんでスキルアップにつなげてほしいとの願いを込めた。

問い合わせ先は、体験会が同社商品企画部（0258-24-3335）、商品については、第4営業部東京営業所（03-5815-8044）まで。



コインランドリー

関原1丁目に新設

コバヤシ

コバヤシ（小林茂代表取締役、燕市花園町28-7）は、長岡市関原1丁目4589-1地内の敷地2293・77㎡にW造平屋建て、床面積41・4㎡のコインランドリーの新築を計画する。

第1種中高層住居専用地域での良好な住環境への影響について、利害関係者の意見を聞くため16日には、関原コミュニティーセンターで公聴会の開催が予定されている。

若手技術者発表会

若手技術者の発表を表彰

雪室併設工場が竣工

魚沼市水の郷工業団地に

ブルボン

菓子製造大手のブルボン（吉田東代表取締役社長、柏崎市駅前）が魚沼市水の郷工業団地（魚沼市十日町八色原）で新設を進めてきたブルボン魚沼工場が完成した。第一期工場棟、新料保管庫、雪室棟の竣工を祝い、1日、関係者ら30人が出席して内見式典が挙行された。

吉田社長

新工場は2021年7月1日に着工。S造2階建て、延べ床面積901・50㎡（第一期工場棟分）、建築面積499・36㎡で、雪国の特性を生かした雪室の併設が最大の特徴。雪室棟は床面積85㎡、容積595㎥、高さ7m で、最大450トンの貯蔵が可能。隣接する保管庫に雪冷熱を送風し、カカオ豆の品質保持、脱臭や苦みの軽減、食味や風味の向上を図り、付加価値を備えたチョコレート製品などの事業展開を目指す。

ブルボンは16年3月に同所への進出を決定し、県内10工場目の建設用地としてテーブルマーク、魚沼醸造などが立地する同団地内のフードタウンに5万955㎡91・38㎡の敷地を取得。植木組の設計、施工で整備を進めてきた。

あいさつに立った吉田社長は「98年前、関東大震災の翌年に地方への貢献を目的に創業した。以来、国際的な戦力商品を作ろうと失敗を重ねながらやってきた」と沿革に触れ「雪国でチョコレート製品は無理と言われたが、伊藤園様（雪だるま財団）から雪室での低温保存、エネルギー効率が良いことなどを知り、建設した。首都圏への物流拠点としても利用していきたい」と抱負を語った。

内田幹夫市長は「豊源を活用しての製品づくりは同業他社には無いこと。トップランナーとして期待したい」と祝辞を述べ、施工者として感謝状の贈呈を受けた植木組の植木義明代表取締役社長は「思いを形にでき、建設産業として大変うれしい。ここでの製品が世界に出荷されることを願う」と謝辞を述べた。

式典後に感想を述べた吉田社長は第3期計画について「ほかの候補地もあり、どちらが先になるかは分からない。状況を見ながら判断したい」と視野に入れていることを示した。

2月に雪を入れた雪室

謝辞を述べる植木社長